

東京クローバークラブ特別演奏会

は な だ い る

縹色の音を求めて

2011年3月26日(土) 13:30 開演

第一生命ホール

■主催 東京クローバークラブ



ご挨拶

東京クローバークラブ幹事長 影田武道

本日はお忙しい中「東京クローバークラブ特別演奏会」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

東京での本格的な演奏会は 2008 年 10 月に行った「創立 50 周年記念演奏会」以来、約 3 年ぶりとなります。メンバーの平均年齢は 60 歳を超えていますが、歌うことへの情熱はいささかも衰えることはありません。これもひとえに、ご来場の皆様方はじめ、多くの方々の温かいご支援とお励ましの賜物と、厚く御礼申し上げます。

この度の演奏会では、作曲家 多田武彦先生に東京クローバークラブから委嘱をお願いした「落葉松と焚火」を初演いたします。多田先生は「東京クローバークラブの音色は縹色である」と表現なさいました。この音色を求め、指揮者・メンバーの想いをひとつにして演奏いたします。どうぞ、このひと時をごゆっくりお楽しみ下さい。

東京クローバークラブ指揮者 小林香太

忙しい日々を過ごす中でふと「私たちはなぜ歌うのか」ということを考えるときがあります。愛する歌を気のおけない仲間と共有する、その積み重ねがすなわち『生きる証』であることを私たちは知っています。

想像すらしなかった未曾有の困難に直面し、あらためてこの問いと向き合うことになりました。背負わされる苦しみや悲しみは、深い暗闇の中では到底消化しきれません。私たちは再び希望の光をもって進んでいかねばなりません。光を求める思いは言葉となり歌となって、人々の心に励ましと癒しを与えてくれます。今こそ歌の持つ力を信じたい。

敬愛する多田武彦先生の委嘱にあたっては、今の東京クローバーに最もふさわしい詩を選んでいただきました。応援して下さる皆様はもとより、家族や仲間のために、そして光を必要とするすべての人々のために、心を込めて縹色のハーモニーを奏でたいと思います。

Program

I 祈りのうた

指揮 小林香太

De Profundis ~ 深き淵より (*Leevi Madetoja*)
Periti autem (*Felix Mendelsson*)

II 福永陽一郎編曲による 「日本のこころ」をうたう

指揮 小川明子

青蛙 (三木露風作詞／山田耕筰作曲)
この道 (北原白秋作詞／山田耕筰作曲)
砂山 (北原白秋作詞／中山晋平作曲)
中国地方の子守唄 (岡山県民謡)
あわて床屋 (北原白秋作詞／山田耕筰作曲)

～ *Pause* ～

III 男声合唱組曲 「落葉松と焚火」 (北原白秋作詞／多田武彦作曲) (東京クローバークラブ委嘱作品・本邦初演)

指揮 小林香太

落葉松
雀
銀杏
初秋の空
林泉の空
焚火

IV *A Chorus of Love* 愛をうたう ~ ロバート・ショウ合唱曲集より (編曲 : *Alice Parker and Robert Shaw*)

指揮 小林香太
アルト 小川明子

Seeing Nellie Home (*J. Fletcher*)
Marianina (*Italian Folk Song*)
Vive L' Amour (*Traditional U.S.A.*)
Stodolė Pumpa "Walking at Night" (*Traditional Czech Folk Song*)
Love's Old Sweet Song (*James Lyman Molloy*)

男声合唱組曲「落葉松と焚火」誕生記 多田 武彦

1950年、京大に入学直後、合唱団に入団した私は、先輩の指示により男声合唱団の指揮者を命ぜられた。1946年から作曲に必要な「和声学」と「楽式論」を独学で習得して来たものの、指揮には全くの無知であった。そこで、下宿に近い同志社グリークラブの練習場の片隅で、当時の学生指揮者・日下部吉彦さんの指揮する練習を固唾を吞んで見聞した。永年にわたって同志社グリークラブを指導してこられた森本芳雄先生や歴代の学生指揮者・メンバー各位が築いてこられた伝統のもと、「統一された音色と一糸乱れぬアンサンブル」によって、本番さながらの演奏が繰り広げられていた。

この頃から既に、同志社グリークラブの音色が「縹色（はなだいろう）に暮れ泥んでゆく、あの夕空の色」として、私の心奥に居座ってしまった。

1957年、当時、同志社グリークラブに入団していた二番目の弟を通じて、新曲の委嘱があり、北原白秋先生の詩による「男声合唱組曲・雪と花火」を作曲した折には、迷わず終曲に、隅田川の川開きを描かれた白秋先生の詩「花火」を配した。学生指揮者河原林昭良さん（故人）の指揮による同志社グリークラブの名初演のおかげで、今でも我が国の男声合唱愛好の皆さんによって愛唱されるが、多くの方が「縹色を背景に百花繚乱の如く打ち上げられる花火を思い浮かべながら歌ってゆく」と感慨を述べられる。

東京クローバークラブとのお付き合いは古く、特に、私の弟の一年後輩にあたる市島章三さんとの交流も長い。（市島さんは在学当時の同志社グリークラブ学生指揮者で、「雪と花火」初演翌年は市島さん指揮により全国で「雪と花火」の名演をして頂いた）

一方、組曲「落葉松と焚火」の初演の指揮をしてくれる小林香太さんとの出会いは、1997年の第46回東西四連。その年の同志社グリークラブの学生指揮者だった小林さんは、その年の定演や演奏旅行で、男声合唱組曲「在りし日の歌」の名演を続けてくれた。2008年の夏、市島さんから電話があり、「現在、東京クローバークラブの指揮者は小林君がやっている。今、創立 50 周年記念演奏会に向けて組曲「雪と花火」と「東京景物詩」の中から数曲を練習しているが、小林君がいくつか作曲者から聞きたいことがあると言っているの、練習場まで来てほしい」とのことであった。具合の悪かった体調も、少し良かったので行ってみると、懐かしいメンバーが一杯居て、奥床しい縹色の響きが満ち満ちていた。

私の側からは門外不出のエピソードなども織り交ぜて、両組曲の作曲の動機や、白秋先生の詩から受けた感慨などを、メンバー各位の前で話した。

数ヵ月後に、東京クローバークラブとの間で、初めて新曲を作る話が纏まった。前述の経緯から、すぐに白秋先生の詩による男声合唱組曲を作ることにした。永年思い続けていた「落葉松」を組曲の冒頭に配した。

「多くの詩人の詩には、時間的空間的に様々な波動と変幻自在の速度がある。これをよく見極めた上で、これに寄り添ったり、対峙したりしながら、作曲することが大切」と、恩師の清水脩先生や一度だけご指導を受けた山田耕柞先生から教えられた。確かに白秋先生の詩には大部分様々な波動と変幻自在の速度があるが、「落葉松」には華麗な波動はなく、進行速度も極めてゆっくりしている。落葉松の林道を逍遥される白秋先生の後ろ姿を追うと、一旦林道を出てまた次の林道に入る。霧雨がかかり、山風が吹き、稀に人も往き来する。ふと林間から浅間山を望む。そして最後の四行に、「この静かな逍遥と、生々流転の人生」がオーバーラップして、先生の後ろ姿が霧雨の中に消える。

第一曲を作り終えた後、この流転の人生を、静かに過ごされた先生に思いを馳せて、五つの詩に作曲を続けた。組曲「雪と花火」を書いたのは私が 26 歳の後半。それから 50 年以上の歳月が流れていた。

私の老境に相応しい作品を書く機会を与えて頂いた東京クローバークラブの各位に、厚く御礼申し上げると共に、演奏会のご成功と各位のご健勝ご多幸を心よりお祈りする。

男声合唱組曲

「落葉松と焚火」

(北原白秋作詞／多田武彦作曲)

I. 落葉松

一

からまつの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

二

からまつの林を出て、
からまつに林に入りぬ。
からまつに林に入りて、
また細く道はつづけり。

三

からまつは奥も
わが通る道はありけり。
霧雨のかかる道なり。
山風のかよふ道なり。

四

からまつは林の道は
われのみか、ひともかよひぬ。
ほそぼそと通ふ道なり。
さびさびといそぐ道なり。

五

からまつを過ぎて、
ゆゑしらず歩みひそめつ。
からまつはさびしかりけり。
からまつとささやきにけり。

六

からまつを林を出て、
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
からまつをまたそのうへに。

七

からまつは林の雨は
さびしげいよよしづけし。
かみこ鳥鳴けるのみなる。
からまつを濡るのみなる。

八

世の中よ、あはれなりけり。
常なけどうれしかりけり。
山川に山がはの音。
からまつをからまつのかぜ。

II. 雀

いや高く、
さむざむと、まだ、
揺れるこの孟宗の秀の、
あはれ、その秀に、
留まりもあへぬ雀の、
一羽雀の、
揺られては、ちち、
吹かれては、ちち、
いつれは散りゆく日あし
今は冬——— すぐに雨なり。

III. 銀杏

銀杏は緑いろの實だ、
白い眼の形した殻、
あの稜をたたくと———
わたしは思ひ出す、
お河童髪さんの昔を。

銀杏は緑いろの實だ、
火に寄せると金いろの輝きをして
苦いほど焦げる。———
もひとつ作らう、小さな木の榎と臺砧とを、
また、秋風の夜を坐らう。

銀杏は緑いろの實だ。
ひとつひとつ叩いて、
さあ、ひとつひとつ焼かうよ
わたしは作つた、小さな木の榎と臺砧とを、
おお、我子よ、坐らう。

銀杏は緑いろの實だ。
あの白い殻をたたくと。

IV. 初秋の空

——— 二階の書斎より ———

ああ、あの瑠璃の満ち満ち
空の深さ。
ああ、この緑と薄黄との
輝く孟宗を透かして。

未だに激しい残暑の日射、
つくつくほふし、
しかもいち早い秋の微風は
揺れうごく笹のしだれを越す。

あ、揚羽が来た、黒い翅を張つて
ひらひらと潜り抜ける。
親しい、それも厭かな
吹かる、おのづからの姿。

季節は風と光に乗る、
凡ては流る、有りの儘に。
まかせよ、さながらの薫りを、
まかせよ、寂びと境りと。

ああ、あの瑠璃の満ち満ち
空の深さ。
ああ、この緑と薄黄との
輝く孟宗を透かして。

V. 林泉の空

林泉のそばに陶器の榻がある、
榻はつめたたくて白い、つやつやしてゐる。
誰か来て、今にも、
腰をかけさうな、
来てくれぬ方がいとも思へる。

星間の竹には風が動いて、
空には薄い絮雲が見える。
あ、星がまたいた、一つ、
おお、あれこそ、昔の
幼い私では無かつたか。

VI. 焚火

一

落葉焚けばおもしろ、
樨の葉はふすふす。
萱の葉はちよろちよろ、
松の枯葉ははちばち。

二

ひとりて焚く落葉を
ひとりて嗅げばおもしろ、
山のにほひがする、
あの頃のにほひがする。

三

落葉焚き焚き、
ひとり遊ぶころの
何か果敢なくなりけり。
もひとつ強く燃さうよ。

四

くぬぎの燃ゆるにほひは
くぬぎの枯れし香ぞする。
ただそれだけの事さへ、
うれしや、冬はさみしや。

五

落葉焚き焚き、
ただ遠くを見てあつ。
赤い女松のまばらに、
をりふし明る日あたり。

六

落葉焚くかたへに
見つけてふともうれしや
竜胆が蕾んでゐる。
二つづつくらんでゐる。

七

萱がよう燃えるわ、
あたたかいたあたたかいぞ、
と、云うては見れど、
やつぱりさみしい、
黙つてばかりゐずとも、
何か云え、お前も。

I 祈りのうた

全ての西洋音楽の基礎となっていると言われるグレゴリオ聖歌は6世紀末にローマ教皇グレゴリオによって編纂されはじめたと伝えられています。その単旋律の聖歌「天使たちの歌うキリエ」をもってこの曲は始まります。どこからともなく聞こえ始める「キリエ エレイソン(主よあわれみたまえ)」の声に導かれて、美しい旋律がユニゾンで歌われます。

それに続く「デ・プロフンディス」はラテン語で「深き淵より」の意味をもつ、旧約聖書 詩篇第130 篇冒頭の言葉がそのまま歌われています。その内容はⅠ. 深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。主よ、この声を聞き取ってください。Ⅱ. 主よ、あなたが罪を全て心に留められるなら、主よ、誰が耐ええましょう。Ⅲ. 私は主に望みをおきます。Ⅳ 慈しみは主のもとに、豊かなあがないも主のもとに。単旋律のグレゴリオ聖歌に、パレストリーナ様式のモテットの形式を加え、斬新な和声感を取り入れた「古くて新しい」感覚をもつ音楽になっています。

作曲者レーヴィ・マデトーヤ(1887-1947)はフィンランドの作曲家でその民族ロマン主義を代表する作曲家の一人です。

このステージの最終曲はF. メンデルスゾーンの“ペリティ アウテム -作品番号 115-2”です。我々グリークラブの先輩たちが西洋音楽をうたうことが難しくなった1943(昭和18)年当時にもいくつかの讃美歌と共に歌い継いだ曲の一つです。歌詞の大意は「死した者もお天において輝いている。あがなわれた人々は星のように輝き、永遠の生命に入る。」とあります。

II 日本のころをうたう

唱歌や子守唄など誰の心にも沁みいる懐かしい名曲の数々を、福永陽一郎による合唱編曲ライブラリーの中からお届けいたします。福永陽一郎(1926-1990)は藤原歌劇団などでオペラ指揮者として活躍する一方、同志社グリークラブの技術顧問を長らく務め、日本の男声合唱界の発展に大きな功績を残しました。

IV *A Chorus of Love* 愛をうたう - ロバート・ショウ合唱曲集より

コーラス愛好家の皆さんには、ぜひ心の中で一緒にうたっていただきたい名曲を揃えました。ロバート・ショウはカリフォルニア州生まれ(1916年)、学生の時にすでに自身の合唱団を組織し、27歳にして全米最優秀合唱指揮者に選ばれ、1949年にロバート・ショウ合唱団を立ち上げるなど、その生涯を通じて多くの合唱編曲と共に名演奏を残しました。

Seeing Nellie Home

空には明るく星が輝き、月が青く照り、
ダイナお婆さんのキルト会の帰り道、
私がネリーを家まで送っていった時に。

Marianina

トスカナの太陽のように明るいマリアンヌ、
その笑みをたたえた目と踊りだしそうな脚は
男たちの心を虜にしてしまう。

Vive L'Amour

さあ、いいやつを誘いこんで歌おうじゃないか。
仲間とよいハーモニーがあれば、幸せさ。
いつか別れる時がきても、この日々を思い出そう。

Stodolė Pumpa

ダンスパーティーの帰り道、
星空のもとをエレナとあるく。
こんな時間がいつまでも続くように願いながら。

Love's Old Sweet Song

夕暮れの街にいつも聞こえる懐かしい愛のうた。
歩みは弱まり、行く道はけわしくなろうとも、
全てにまさって美しいあの愛のうた。

Conductor



小林 香太 *Kyota Kobayashi*

1976年奈良県生まれ。幼少の頃より教会音楽を通して音楽的素養を身につける。大学在学中は同志社グリークラブ第66代学生指揮者として活躍した。2002年より東京クローバークラブ指揮者を務める他、アマチュアとして合唱指揮やテノールソロの歌唱活動が続いている。その中心には常に祈りの音楽があり、これまでヘンデル《メサイア》の全曲指揮とソリストを務めた他、隠れキリシタンを題材とした大島ミチル《御誦》を指揮、東京芸術劇場(2005年)/長崎・浦上天主堂(2006年)公演を成功させた。2008年にはSINGS2008演奏会にてスウェーデンの作曲家S.ドブロゴス氏と共演、代表作《MASS》を演奏した模様は氏によってYoutubeに掲載され反響を呼んだ。昨夏には韓国演奏旅行にてソウルを訪問、セムナン教会・延世大学におけるチャペルコンサートを成功に導いた。またソリストとして全国各地の教会で賛美奉仕を行う等、柔軟な発想と音楽で生まれる絆を大切にし精力的な活動を行っている。Ensemble SINGS指揮者、なにわコリアアーズメンバー。住友電気工業(株)勤務。

Alto

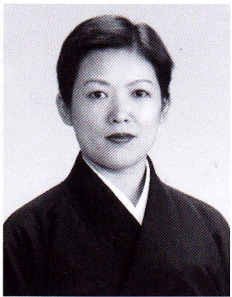


小川 明子 *Akiko Ogawa*

東京芸術大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所第10期修了。1992年第61回日本音楽コンクール声楽(歌曲)部門第2位入賞。第4回日本声楽コンクール第3位入賞。1993年第4回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、ならびに山田耕作賞受賞。1997年文化庁派遣芸術家在外研修員として1年間ウィーンに留学。

オペラではラヴェル『子供と魔法』、ワーグナー『さまよえるオランダ人』、演奏会形式オペラのシェーンベルク『モーゼとアロン』(秋山和慶指揮/東京交響楽団)、R.シュトラウス『サロメ』(大野和士指揮/東京フィル)、ヘンツェ『ルプバ〜ヤツガシラと息子の勝利』(飯森範親指揮/東京交響楽団)、プリテン『ピーター・グライムズ』(尾高忠明指揮/札幌交響楽団)など多数出演。コンサートではベートーヴェン『第9交響曲』をはじめ、ヘンデル『メサイア』、バッハ『マタイ受難曲』、『口短調ミサ』等の宗教曲やマーラーの交響曲などで多くのオーケストラや合唱団と共演している。CD『日本歌曲選』、『啄木とみすゞを歌う』、『からたちの花 山田耕作歌曲集』、『荒城の月 国楽を離陸させた偉人たち』(ピアノ/山田啓明)をリリース。高橋啓三、渡邊高之助、戸田敏子、毛利準、アデーレ・ハースの諸氏に師事。二期会会員。http://www.geocities.co.jp/MusicHall/9932/

拍子木



橘 美穂 *Miho Tachibana*

日本舞踊橘流・初代宗家・橘抱舟師・取立師範名取である橘左梗(母)により2歳の頃より日本舞踊の稽古を受ける。

15歳で橘流2代目宗家・橘裕代師・取立名取となり、その後師範名取を取得。現在は橘流3代目家元・橘芳慧師の下で稽古を重ね、日々精進している。

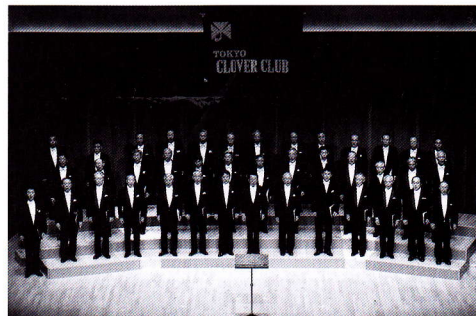
国立劇場・日本橋劇場にて、長唄「娘道成寺」・清元「青海波」・長唄「浅妻船」、長唄「鶯娘」など多数演目出演。

合唱 東京クローバークラブ

東京クローバークラブは、同志社グリークラブのOBを中心とした男声合唱団で、1958年7月6日サンケイホール(東京)で開催された「クローバークラブ第1回東京演奏会」で産声をあげました。今年で創立52年になります。国内では、定期演奏会、東西四大学OB合唱連盟演奏会(早稲田・慶應・関西学院・同志社)の他、東京・松戸・宇都宮・仙台・松山・長野の各教会での礼拝奉仕・チャペルコンサートを積極的に行い、海外でもアメリカ(ハワイ・ボストン)・台湾・韓国・中国(上海)・チェコへの演奏旅行と広く活動を行っています。

2005年7月に東京芸術劇場で開催されたOB四連と、2006年10月に浦上天主堂(長崎)で開催された「ローマ教皇来崎25周年記念演奏会」で大島ミチル作曲「御誦」を演奏し大きな反響を呼びました。

2005年東京芸術劇場で開催されたOB四連での「御誦」の共演をきっかけに小川明子氏(東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修了・二期会会員)にヴォイストレーニングをお願いし発声・唱法の研鑽に努めています。



TOP TENOR

南 迫 卓一	河野 賢太郎	影 田 武 道	池 田 研 一	東 英 達	荒 川 匠 平
宮 島 寿	尾 池 智 治	平 谷 有 祐	小 林 香 太	阪 本 大 輔	

SECOND TENOR

岩 木 六 馬	明 神 宣 生	山 口 達 夫	畑 恵 郎	岩 谷 誠 之	石 黒 武
荒 井 直	魚 谷 庄 司	影 田 知 道			

BARITON

橘 守	大 友 慶 介	宮 副 隆 好	森 本 潔	下 津 啓 誠	川 添 正
阿 部 光 夫	吉 田 正 彦	遠 藤 好 俊	多 々 清 爾	市 之 瀬 崇	

BASS

野 村 秀 治	木 村 誠 一	寒 河 江 正	市 島 章 三	竹 田 守 孝	田 中 惺
林 田 慎 也	後 藤 健 夫	鈴 木 謙 介			